

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 れいんぼう		
○保護者評価実施期間	R6年 12月 17日		R7年 1月 18日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28世帯	(回答者数) 18世帯 (回収率 64%)
○従業者評価実施期間	R6年 12月 17日		R6年 12月 29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9人	(回答者数) 9人 (回収率 100%)
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 1月 24日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ご利用者さま一人に対して、必ず一人担当職員を配置していることで、個別、集団どちらにも対応できる。	担当職員が固定化されないように、担当職員の選定をしている。 様々な職員と関わることで、アセスメントが複数人で行える、様々な性格の職員と関わることで、コミュニケーションの幅が広がることをねらいとしている。	1対1の職員配置は基本とし、集団活動を円滑にするために、リーダー(進行役)としてプラス1人の配置をできるかぎり行っている。
2	保護者支援ができるよう、毎回保護者の方と話ができる時間を設定している。保護者控え室で療育活動の様子をモニター越しに見聞きできる。	電話、ライン、メール、連絡ノート、フィードバック時等様々な形態で相談できるようにし、状況によっては、ご家庭で使用できる視覚提示を作成し手渡している。	保護者の方が一人で様々な思いを抱え込まず、思いを吐露できるような保護者会(おしゃべり会)の開催を行い、仲間作り支援を行う。
3	療育活動が固定化されないように、様々なプログラムを用意している。	週ごとに主に行う活動を選定した上で、複数回利用児に配慮しながら療育活動を設定している。 主な活動は、運動・集団遊び・感覚遊び・工作・お菓子作り・季節行事。	外部講師として、リトミック・臨床美術・フラダンス・オカリナ作り・竹あかり作り・和文化体験・わらべ歌・音楽遊び、、、の方に来所していただき、様々な体験ができるよう取り組んでいる。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ペアレントトレーニングのや家族の方が参加できる研修の情報提供ができていない。	ペアレントトレーニングを主催できる人材の育成。	ペアレントトレーニングが行えるよう研修受講。一斉メールを利用して、家族の方が参加できる研修の周知をおこなっていく。
2	ホームページやInstagram等で、情報発信ができていない。	情報更新の担当者が一人。	一人ではなく、複数人に変更する。
3	非常時等の対応方法が利用者さまみなさんに周知されていない。	非常時の対応方法が記載されたファイルは相談室に設置しているため、相談室に入室しない保護者の方は目にする機会がない。	契約時にファイルについて説明をしているが、オープン当初からのご利用者さまには周知できていない。 年に1度一斉送信でファイルの所在をお伝える。